

1. 園の教育目標

・教育の根源である宗教、道徳の基盤たるカトリック教義に基づき、教育基本法及び学校教育法により、幼児を保育し適当な環境を与えて、その発達を助長する。
めざすこども像として以下の6項目を掲げる
1、手を合わせる心を育てる。 2、返事・挨拶が素直にできる。 3、何事にもくじけず心も体も強い子に。
5、思いやりのある心を育てる。 5、人の痛みのわかるやさしい人。 6、誰とでも仲良くする子ども。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

・様々な食の体験を通して食の楽しさや大切さ、生きることの喜びを感じる。
又、食材に興味関心を持ち、深く知ろうとする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・園の教育方針を念頭に入れて保育を行い、発達を助長する。	・人格形成の土台となる幼児期に携わる者として、常に手本となり示していく。 日々の積み重ねの中で自然と手を合わせお祈りすることや丁寧なお辞儀、挨拶の仕方を身に付けている。又、遊びや保育活動等友だちや小動物、草花との触れ合いを通して相手の思いや考えに気付き思いやりの心を育てている。
・多様な感情を体験し、心豊かな幼児を育てる為に様々な人や自然と触れ合う機会を増やす。	・コロナが落ち着き、5類へ移行したことを踏まえコロナ禍前の園行事の実施のみならず今年度は出帆見送りや交通安全教室、芋掘り、消防署見学、人権教室などを計画。外部の方々との交流も楽しみつつ実際に目で見て、聞いて触れて感じて成長する場となっている。
・季節や幼児の実際の活動などに合わせた環境作りを心掛けている。	・季節を感じられるような、イベントに期待を持てるような製作を各学年の発達状況やその時期の活動内容等をもとに考え、楽しく製作活動に取り組めるようにしている。子どもの作品が廊下に飾ってあるだけであたたかみを感じることが出来る。
・「利用してみたい」と興味を持ってもらえるような子育て支援の充実化を図る。	・少子化、核家族化、共働き世帯の増加と共に園児数を維持していくのは難しい状況下で、まずは未就園児親子に足を運んでもらえる様、にこにこランドの回数と内容を練って計画。チラシ配布と職員の積極的な声掛けにより利用者増に繋がっている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・“好き嫌いを減らし美味しくいただく”“食事のマナーを身につける”“食と命の繋がりを知り、命をいただくこと。食に携わる人たちに感謝の気持ちをもつ”ことができる様、実際に栽培をしたり、色々な食材に興味があるような活動（日々のメニューの掲示、直に触れて五感で楽しむ、野菜スタンプ、クイズ、絵本、カルタ遊び等）を取り入れてきた。学期を追うごとに楽しい雰囲気の中でマナーを守りながら一緒に食べる楽しさを味わえるようになってきたり、食材に対する興味・関心、完食の増加、感謝の心を持てるようになってきた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教職員は幼児や幼児教育に関する情報をたえず捉えようとしている。	・教職員同士で幼児の観察、気付きを伝え合いながら、幼児の姿を多面的に捉えていく視野を広げよりよい保育に繋げていく。 ・保育雑誌やインターネット、研修会への参加等を通じて変わりゆく幼児教育の在り方、様々な新情報を吸収していく。
・特別支援について。	・支援を必要とする子どもが抱えている困難さについて学び、集団の中で出来る事や環境構成を考える。 ・園と保護者、療育機関と連携を図りながら具体的な個別支援計画を立て、子どもに寄り添った保育に努めていく。
・園児がより安全に過ごせるよう防犯安全対策の強化を図る。	・園舎に防犯カメラを設置し、不審者をいち早く発見。状況に応じた対応が迅速にできるよう職員室で監視を行う。 ・月1の園内・園舎周りの点検、毎日の遊具点検を継続して行い園児の安全を第一に考え、その都度必要な補修作業に努める。 ・特に外遊びの時は、自分のクラスの子だけでなく全体に目を向ける意識を心掛ける。